

## ▼オルダミン注射用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 オレイン酸モノエタノールアミン monoethanolamine oleate 【分類】 食道静脈瘤硬化剤

【単位】 ▼10g/V [モノエタノールアミンオレイン酸塩 1g 含有]

【用法】 1V 当たり 10mL の注射用水または血管造影用 X 線造影剤で 5% 溶液に調整後、食道静脈瘤 1 条当たり 1～5mL 静脈瘤内に注入。1 内視鏡治療当たりの総注入量は 20mL 以内とする。

【透析患者への投与方法】 透析患者の投与方法に言及した文献はないが減量の必要性はないと思われる (5)

【保存期腎不全患者への投与方法】 重篤な腎障害には慎重投与と成っているが減量の必要はない (5)

【特徴】 陰イオン性界面活性剤に属する不飽和脂肪酸である。食道静脈内局所に作用し、血管の内皮細胞を速やかに破壊し、その部位へのフィブリン、血小板及び赤血球の沈着・集積を起こすことによって血栓を形成させる。静脈瘤の消失機序としては、閉塞血栓による静脈瘤の虚脱及び血栓の器質化による瘤の縮小である。

【主な副作用・毒性】 ショック、DIC、肝性昏睡、急性腎不全、重篤な血栓症、食道穿孔、食道内巨大血腫、発熱、血色素尿、胸痛、食道狭窄、胸水貯留、血圧上昇、腎障害、LDH 上昇、頭痛、総ビリルビン上昇、白血球増多、白血球・赤血球・ヘモグロビン・血小板の減少、食道びらん出血、食道潰瘍出血、出血性胃炎

【代謝】 肝臓、局所投与量の 18% 以上が酸化され、CO<sub>2</sub> になる (Klain GJ, et al: Fundam Appl Toxicol 5(6 Pt 2):S127-33,1985)

【排泄】 尿中回収率 1.6% [24hr まで] (Klain GJ, et al: Fundam Appl Toxicol 5(6 Pt 2):S127-33,1985)

【分布】 肝に 24%、腎 2.53%、肺 0.55%、脳 0.27%、心 0.15% 分布する (Klain GJ, et al: Fundam Appl Toxicol 5(6 Pt 2):S127-33, 1985)

【TDM のポイント】 TDM の対象にならない

【備考】 【警告】 本剤による内視鏡的食道静脈瘤硬化療法では、ときにショック等の重篤な副作用があらわれることがある。

【更新日】 20180403

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。